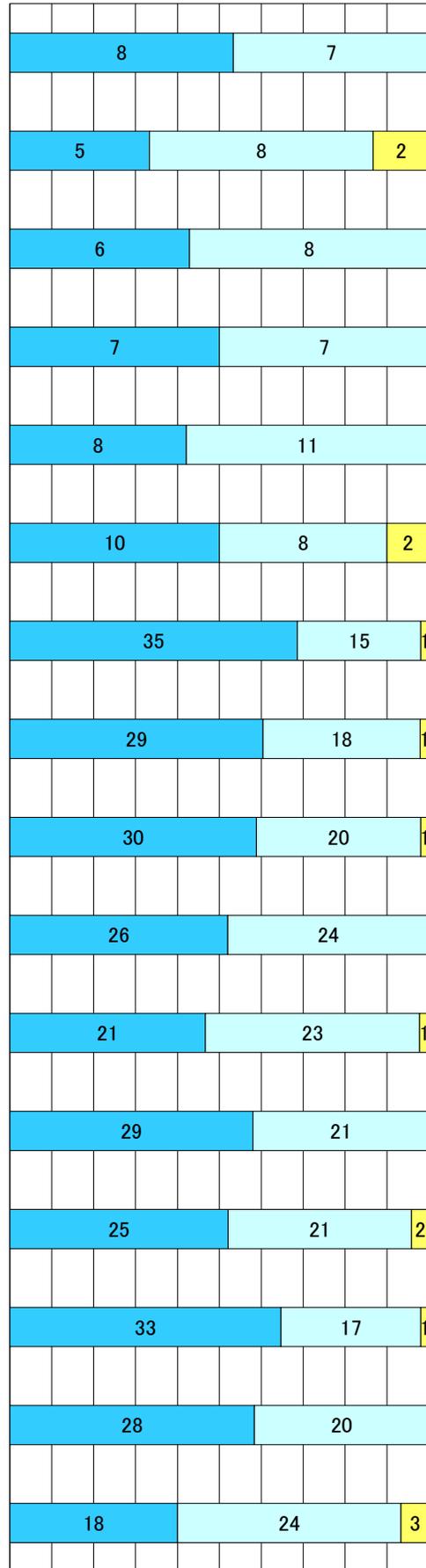


令和7年度 教育活動に関するアンケート 集計結果  
(保護者)

No.	項目	評価
小1	[小学部1] 児童は、「遊び」を中心とした活動に、安心感を持って取り組んでおり、興味・関心のあることを見つけ広げたり、自分の思いを自分なりの方法で他者に伝える力を付けていたりしている。	A
小2	[小学部2] 児童は、生活リズムが整ったり、身の回りのことを自分から行おうとしたりするようになってきている。	B
中1	[中学部1] 生徒は、「ゆうゆうタイム」や「グループくらし」を中心に、好きなことや得意なことを見つけ、興味関心を生かした活動に意欲的に取り組んでいる。	A
中2	[中学部2] 生徒は、集団活動の中で、友達や教師と気持ちを伝え合ったり、自分の役割を果たしたりしながら、協力して活動に取り組んでいる。	A
高1	[高等部1] 生徒は、様々な活動を通して、現在および将来について考えたり、自分の強みや弱みを知らうとしたりしている。	A
高2	[高等部2] 生徒は、自立や社会参加を目指して「仕事」や「生活(働く・暮らす・楽しむ・人間関係)」などの様々な活動に意欲的に取り組んでいる。	A
3	[個別プラン] 本校は、児童生徒や保護者の願いを考慮し、実態に合った「個別プラン」を作成(評価までを含む)して提示している。	A
4	[教育活動] 本校は、児童生徒の個々のニーズに応じた活動を設定し、適切な教材などを使い、児童生徒に合った支援を行っている。 例:のびのびタイム(遊びなど)・ゆうゆうタイム・仕事・生活・くらし・運動・表現・全校集会・学部行事・学校行事などの場、環境設定や支援ツールなど	A
5	[情報共有] 本校は、日々の学習活動や行事などの様子を保護者に丁寧に伝えている。 例:個別教育相談会、学部だより、学校だより(ハツ島だより)、ホームページ、連絡帳など	A
6	[安全教育] 本校は、児童生徒の安全や事故防止のための研修や体制づくりに努め、児童生徒の安全教育を行っている。 例:長期休業前の生活指導、安全教育、避難訓練の実施、交通安全指導、教職員による安全点検や防犯研修(不審者対応訓練)、救急救命講習の実施など	A
7	[情報教育] 本校は、必要に応じて情報機器(タブレットやパソコンなど)を活用し、その際のルールやマナーなどの学習を行っている。 例:授業での情報機器活用、情報モラルに関する学習(ひまわり教室)や情報提供など	A
8	[保健教育・食育] 本校は、健康な体づくりのため、保健教育、食育、運動などの学習を適切に行っている。 例:保健教育(からころタイム)・食育の授業実践や掲示物、運動の授業、各健康診断の実施、健康観察(学校、家庭)など	A
9	[キャリア教育] 本校は、自立した生活を送るために必要な力(例:コミュニケーション力、生活管理、意思表示など)を育むために、人と関わったり、集団の中で役割を果たしたりする活動を設定している。 例:のびのびタイム、クラス遊び、ゆうゆうタイム、グループくらし、仕事、生活など	A
10	[進路学習・進路指導] 本校は、進路選択の参考となる情報提供、事業所などの見学・体験実習・現場実習、進路に関する相談対応を適切に行っている。 例:(全学部)進路説明会、進路だより、進路学習会、事業所見学会、進路ケース会議、(中・高)体験実習・現場実習、進路相談会など	A
11	[教育相談] 本校は、児童生徒が伝えたいことがあるときや、保護者が児童生徒のことで困ったことがあるときなどに、話し合える場が設けられており、必要な情報を得るなど相談しやすい状況にある。 例:おしゃべりタイム(児童生徒)、個別教育相談会、支援会議、からころ教室、おしゃべりサロン(保護者)など	A
12	[地域交流] 本校は、地域(本校の所在地域、児童生徒の居住地、卒業後の生活域、附属学園)とつながりを持ちながら教育活動を展開している。 例:作品展示や販売活動での交流、居住地校交流、附属学園との交流、現場実習先や放課後等デイサービス事業所との連携など	A

※評価 A: 「十分あてはまる」と「あてはまる」の合計が90%以上、かつ「十分あてはまる」の割合が40%以上  
 A-: 「十分あてはまる」と「あてはまる」の合計が90%以上、かつ「十分あてはまる」の割合が40%未満  
 B: 「十分あてはまる」と「あてはまる」の合計が80%以上、90%未満  
 C: 「十分あてはまる」と「あてはまる」の合計が80%未満

■十分あてはまる □あてはまる □あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない  
 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



※回答数 51名/53名(小:15名/16名、中:15名/15名、高:21名/22名)  
 ※「わからない」の回答は計上しない  
 ※グラフ中の数字の単位は(名)

項目	評価	評価の分析と課題	改善策・向上策	
各学部	①小学部1	保護者A 教員A	・ 個のニーズに応じた支援を教員間で共有し、児童の発意や好きを元に、安心感を持てるような活動づくりができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、個のニーズに応じた支援をクラスや学部で共有し、協力しながら行う。</li> <li>・ 学校での取り組みや児童の細かな変化などについて、保護者と丁寧に共有しながら本人・家庭共に支援していく。</li> <li>・ 引き続き、教員間で生徒について語り合い、教育的ニーズや支援の方法を共有するとともに、生徒との対話を大切にしながら、生徒の発意やストーリーに基づいた活動づくりを行っていく。</li> <li>・ 社会生活で必要な「相談ができる」環境や本人に合った活動の仕組みを引き続き整えていく。</li> <li>・ 生徒の実態に応じて、自立や社会参加を目指す活動づくりを3年間かけて行っていく。活動に「自分事」に「主体的に」「意欲的に」取り組んでいる点を、個別プランに反映できるようにする。</li> </ul>
	②小学部2	保護者B 教員A	・ 日常生活面での児童も成長が見られているが、保護者との情報共有が不十分な面もあった。	
	①中学部1	保護者A 教員A	・ 一人一人の教育的ニーズやねらいについて共通理解を図り、生徒との対話を通して発意や興味・関心を見つけたり引き出したりしながら、生徒の協働や自己有用感を大切に活動づくりを行うことができた。	
	②中学部2	保護者A 教員A	・ 中学部からの移行支援を受けて個に応じた支援体制をとることができた。	
	①高等部1	保護者A 教員A	・ 生徒は「仕事」などの活動に熱心に取り組む、自分の得意や苦手を知ることができた。卒業後に向けて、苦手の克服などに生徒自身の意識が向くようにしていくことが課題である。	
	②高等部2	保護者A 教員A	・ 複数の教師で児童生徒の実態把握を行い、個別プランを作成した。個別教育相談会で丁寧にやり取りできた。	
教育課程 生活教育	③個別プラン	保護者A 教員A	・ 個のニーズに応じた活動を設定し、支援を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 項目や記述内容について、検討・精選していく。</li> <li>・ これまで同様に丁寧な提示と説明を行っていく。</li> <li>・ 個別プランの内容を確認し、活動づくりに生かす。</li> <li>・ 児童生徒一人一人の育ちについて教員間で情報共有しながら、活動づくりを行っていく。</li> <li>・ 学部間のつながりを意識した教育課程の検討を行っていく。</li> <li>・ おたより等での情報発信を継続する。学部だよりや連絡帳等で、より丁寧な情報発信を目指す。</li> <li>・ 引き続き、連絡アプリ（コドモン）を用いた情報発信も進めていく。</li> </ul>
	④教育活動	保護者A 教員A	・ 各学部の実態に応じて教育課程を工夫し、実践することができた。	
	⑤情報共有	保護者A 教員A	・ 各種おたよりや連絡帳、個別教育相談会等で活動の様子を伝えることができた。	
生徒指導 保健教育	⑥安全教育	保護者A 教員A	・ 安全に関する取組について、おたよりや連絡帳を通じて保護者に発信することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度も、安全に関する取組について、保護者来校時の掲示物、連絡帳、おたより、ホームページなど、複数のツールを用いて随時発信していく。</li> <li>・ 次年度の活動について、可能なものは今年度のうちに計画を進め、活動内容の充実につなげる。</li> <li>・ 外部講師も活用しながら、情報モラルや情報機器の扱い方についての学習を行っていく。</li> <li>・ 日々の情報機器を扱っている様子を保護者と共有していくとともに、各学部の取り組みについて定期的におたより等で発信していく。</li> <li>・ 保健教育や食育は指導時期を年間計画に位置づけ、学習履歴を踏まえながら各学部と検討・吟味を行い、実施していく。実施後は、随時、おたよりや連絡帳、ホームページで発信するとともに、使用した教材の保存を行う。</li> </ul>
	⑦情報教育	保護者A 教員A	・ 外部講師を招いて情報モラルについて学習したことを、おたより等を通じて保護者と共有できた。	
	⑧保健教育 ・ 食育	保護者A 教員A	・ ルールやマナーの学習を進めるとともに、情報機器を扱う機会も十分に設定していけるとよい。	
進路指導 キャリア教育	⑨キャリア教育	保護者A 教員A	・ 児童生徒の実態把握を丁寧にしながら、発達段階に合わせて、キャリア発達を意識した活動を実施できた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育の視点を意識した、児童生徒のニーズに応じた教育活動を継続して設定する。</li> <li>・ 見学会や学習会等は、引き続き外部の専門家などと連携して実施する。進路情報の発信も継続する。</li> <li>・ 進路相談会には相談支援専門員の同席を依頼するようにし、卒業まで継続した支援や取組ができるよう、引き続き連携していく。</li> </ul>
	⑩進路学習・ 進路指導	保護者A 教員A	・ 関係機関と連携し、見学会や学習会等を実施できた。また、進路に関する取組や事業所の情報などを「進路だより」で発信した。	
教育相談・ センター的 機能	⑪教育相談	保護者A 教員A	・ 定期的におしゃべりタイムを実施でき、それ以外にも児童生徒の話を個別に聞く機会を積極的に設けるように努めた。児童生徒の現状について理解が深まり、日々の生活に生かすことができた。	・ 引き続き、おしゃべりタイムを定期的に設けるとともに、児童生徒の現状に応じて個別に話を聞く機会を随時設けるようにする。
地域交流	⑫地域交流	保護者A 教員A	・ 居住地校交流や学校間交流、虹の市、大学との交流など、これまでの交流を継続しつつ、児童生徒の日頃の教育活動を生かした新たな地域交流も実施できた。	・ 本校の児童生徒や交流相手のニーズに応じて、日頃の教育活動に関連した交流活動を計画・実施していく。
			・ 地域交流の情報をおたよりやホームページ等で保護者に周知することができた。	・ 引き続き、地域交流の内容をおたよりや連絡帳等で適時に発信する。